

提案主題 子どもの「学びに向かう力」を育てる取り組みと教頭の役割
 サブテーマ ～生徒指導の三機能を活かした組織的な学習指導と集団づくり～
 協議の柱 子どもたちが主体性を持って様々な人と協働する力を育てるための取り組みと教頭の役割

提言者 杵築市立宗近中学校 佐々木 潤一郎

1 質 疑 なし

2 協 議

(1) 取り組みについて

- ・「学習ステーション」の取り組みは、成果が見られる。アクティブラーニングの一つの形と思う。
- ・「オープンスクールデイズ」は大変だと思うが、先生方の学校を変えたいという思いが感じられる。
- ・落ち着かない生徒を、授業改善することにより授業に集中させていったことは評価できる。全員が本気で取り組んだ証しだと思う。

(2) 教頭の役割について

- ・学力向上プロジェクトは研究主任を中心に行っているが、教頭と主任のかかわりが大切である。
- ・授業観察とその後の指導助言は、教頭（管理職）の大きな役割である。常時授業観察を行い、授業者・生徒が観察者を意識しなくなるようにすべきと考える。
- ・運営委員会の運営、PDCAを回すこと、ミドルリーダーを育てることが教頭の役割。主任へのアドバイスが大切である。

3 指導助言

- ・子ども（中2中3）の発達段階をみると「自己選択、自己決定しながら、前向きに自己実現を図ろうとする。」「自他の違いを認め、受け入れ、自分らしくよりよく生きようする。」とある。これはまさしく生徒指導の三機能をいかした指導が、この時期に効果的であることが示されている。宗近中学校は三機能いかした学習指導・集団づくりを実践したと言える。
- ・教科担任の「たて持ち」は異学年に接することになる、縦につながることを意識するとよい。小中や学年間の連携につながると思う。
- ・学校公開日で参加者を増やすため、地域の方や保護者へ子どもが作った案内状を出したことがある。参考にして欲しい。